

Title	林田雅至主要文献目録
Author(s)	
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/81451
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

林田雅至主要文献目録

■ 著書・共著：

1. 『医療通訳4.0』 連利博・吉富志津代監修，松柏社，2020年，162ページ。
2. 図録『ポルトガル装飾絵タイルアズレージョの芸術』 日本語訳特別版(第9刷)，ポルトガル・カモンイス研究機構，ポルトガル国立アズレージョ博物館，2020年，84ページ。
3. 『国際・未来医療学 健康・医療イノベーション』 中田研・山崎慶太編集，大阪大学出版会，2017年，458ページ。
分担：「医療通訳士とは何か？いかに養成していくか？」291-299ページ。
4. *A Língua Portuguesa no Mundo Passado, Presente e Futuro*(『過去・現在・未来世界のポルトガル語』)，João Malaca Casteleiro(1936 - 2020：ジョアン・マラカ・カステレイロ)監修，Edições Colibri(コリブリ出版)，2017年，397ページ。
分担：A PRESENÇA DA LÍNGUA E CULTURA PORTUGUESAS NO JAPÃO ATUAL E NA MINHA CARREIRA UNIVERSITÁRIA,p.303-311.(現代日本と私の大学人キャリアにおけるポルトガル語・文化の存在意義)，303~311ページ。
5. 『プログレッシブポルトガル語辞典』 林田雅至，市之瀬敦，トイダ・エレナ，吉野朋子編(監修)，小学館，2015年，1154ページ。
<https://sakuyakai.net/?s=%E6%9E%97%E7%94%B0%E9%9B%85%E8%87%B3>
6. 『指して伝える！外国語診療ブックー問診から生活指導まで症状別に対応』 守山敏樹・林田雅至監修，南江堂，2014年，432ページ。
7. 『ヨーロッパ・ことばと文化』 野村泰幸編，大阪大学出版会，2013年，228ページ。
分担：「第6章 装飾絵タイル・アズレージョの世界 — 変容するポルトガル表象文化」116-133ページ。
8. 『日本社会の外国人疎外感を緩和・阻止せよ！II』 2011年度CSCD社学連携事業，大阪市・大阪大学包括協定実績，大阪大学コミュニケーション・デザインセンター，2012年，85ページ。
9. 『ポルトガルを知るための55章』(第二版)明石書店，2011年，280ページ。
分担：「祝祭」189-193ページ；コラム「アズレージョに表れた天正遣欧少年使節」

- 44-45ページ；コラム「イベリア半島言語事情「今昔物語」130-131ページ。
10. 『日本社会の外国人疎外感を緩和・阻止せよ！』（2010年度CSCD社学連携事業，大阪市・大阪大学包括協定実績），大阪大学コミュニケーション・デザインセンター，2011年，91ページ。分担：「はじめに豊中キャンパスにおける「洪庵塾」構想ありき」2-6；「大阪府観光戦略(素案)への提言」7-13ページ。
 11. 『ブラジル——旅があなたの情熱なら，ブラジルはあなたの恋人——』日本語版特別監修，ブラジル政府観光局，2010年，50ページ。
 12. 『外国籍住民の日本語・日本文化学習支援プログラム』（2009年度CSCD社学連携事業，大阪市・大阪大学包括協定実績），大阪大学コミュニケーション・デザインセンター，2010年，139ページ。分担：「雇用悪化の中で変容を迫られる日本語・日本文化学習プログラム」4-15ページ。
 13. 『説話・伝承学の脱領域』（説話・伝承学会創立25周年記念論集），岩田書院，2008年，529ページ。分担：「視覚芸術の虜となる人々」477-486ページ。
 14. 『外国人サポーターハンドブック』（英語・中国語・タイ語・フィリピン語・スペイン語・ポルトガル語），国立大学法人大阪大学，大阪府，OFIX(大阪府国際交流財団)，2008年，256ページ。
 15. 世界遺産登録記念・図録『輝きふたたび石見銀山展』山陰中央新報社，2007年，252ページ。執筆分担：「C. 大航海時代—ヨーロッパに姿を現した荘厳な銀空間—」（展示品解説翻訳）73-85ページ；レオノール・ドルレー著「ポルトガル国立古美術館と金銀細工・貴金属宝石類コレクション」（翻訳）215-219ページ。参考：
<http://www.shimakyo.co.jp/kagayakifutatabiiwamiginzanten.html>
 16. 『外国人のための健康相談マニュアル』大阪府薬務課(作成委員会：伊藤みどり,乾英夫,庵原典子,笠原伸元,齋田幸次,ジェシカ・ホーク,秦秀美,林田雅至,山口邦男)，2007年，163ページ。
参考：http://www.pref.osaka.lg.jp/yakumu/yakkyokutorikumi/f_manual.html
<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/31410/00269527/manual8.pdf>
 17. 『教育機関におけるボランティア活動の可能性（IX）—2004年4月18日医療通訳国際シンポジウム・講演会開催記念号—』（ボランティア教育叢書 第9号）[2003年度教育研究学内特別経費プロジェクト報告書]，大阪外国語大学，2004年，100ページ。
 18. 『教育機関におけるボランティア活動の可能性（VIII）—2002年度開設地域連携事業推進室の多文化・多言語社会への挑戦記録—』（ボランティア教育叢書 第8号）[2002

- 年度 教育研究学内特別経費プロジェクト報告書] , 大阪外国語大学, 2003年, 87ページ.
19. 『教育機関におけるボランティア活動の可能性 (VII) —授業を媒介にした語学ボランティア, 実習の軌跡をたどる—』 (ボランティア教育叢書 第7号) [2001年度 教育研究学内特別経費プロジェクト報告書] , 大阪外国語大学, 2002年, 84ページ.
 20. 『教育機関におけるボランティア活動の可能性(VI)—語学ボランティアを通じて多民族・多文化と「共に生きること」を模索する果てしなき旅のドキュメント—』 (ボランティア教育叢書 第6号)[2000年度教育研究学内特別経費プロジェクト報告書], 大阪外国語大学, 2001年, 95ページ.
 21. 『スペイン・ポルトガルを知る事典』 (新訂増補) 平凡社, 2001年, 544ページ.
執筆分担: 「祝祭」 (p.150-152) , 「ポルトガル映画」 (p.319-21) , [増補項目「ポルトガル美術」 (p.468-70)「美術館」) , 「ポルトガル映画」 (p.467-68) , 「オリベイラ」 (p.439) , 「ブランコ」 (p.439) , 「家族」 (p.442) , 「女性」 (p.453) , 「オディアナ第7の書」裏表紙解説.
 22. 『世界伝承文化研究 (I)』 (1999年度教育研究学内特別経費プロジェクト報告書) 大阪外国語大学比較庶民文化研究会編, 2000年, 85ページ.
分担: 「聖人伝説伝播の原動力—聖セバスティアヌスの場合—」 63—85ページ.
 23. 『教育機関におけるボランティア活動の可能性(V)—語学ボランティアの実践者たちはかく語りき—』 (ボランティア教育叢書 第5号) [1999年度教育研究学内特別経費プロジェクト報告書], 大阪外国語大学, 2000年, 90ページ.
 24. インド航路発見500周年記念・日本ポルトガル文化交流特別展・図録『[ポルトガル-栄光の500年展](#)』 東京富士美術館, 1999年, 231ページ.
 25. 『[教育機関におけるボランティア活動の可能性\(IV\)—語学ボランティアによるさまざまなフィールド・ワークが切り拓く大いなる可能性を論ず—](#)』 [1998年度教育研究学内特別経費プロジェクト報告書], 大阪外国語大学, 1999年, 110ページ.
 26. 『メディア・リテラシー研究』 (プロトタイプ)大阪外国語大学 メディア・リテラシー研究会監修, 1998年, 68ページ.
 27. 『教育機関におけるボランティア活動の可能性(III) —ボランティア精神を底支える存在=生活実感力の上位概究公共的精神—』 (ボランティア教育叢書 第3号) , [1997年度教育研究学内特別経費プロジェクト報告書], 大阪外国語大学, 1998年, 88ページ.
 28. 『教育機関におけるボランティア活動の可能性(II) —生活実感力という新しい視点からボランティア活動を考える—』 (ボランティア教育叢書 第2号) , [1996年度教育研

究学内特別経費プロジェクト報告書], 大阪外国語大学, 1997年, 85ページ.

29. 『教育機関におけるボランティア活動の可能性—大阪外国語大学が阪神大震災から学んだもの—』(ボランティア教育叢書 創刊号) [1995年度教育研究学内特別経費プロジェクト報告書] 大阪外国語大学, 1996年, 125ページ.
30. *Portuguese Voyages to Asia and Japan in the Renaissance Period*(『ルネサンス期アジアと日本を結ぶポルトガル大航海時代』), 上智大学ルネサンス研究所, 1994年, 385ページ.
分担: *The Spiritual Background of Portuguese Overseas Expansion in the Sixteenth Century: Iconology and Politics - the cults of St. Rock and St. Sebastian*(「ポルトガル海外進出のための精神的基盤: 図像学と政治学—聖ロックと聖セバスティアヌスの聖人崇拜—」), 372-385ページ.
31. 『吉澤典男教授追悼論文集』三省堂, 1989年, 465ページ.
分担: 「pai(パパ)の文献学」281-290ページ.
32. 『入門やさしいポルトガル語』南雲堂, 1987年(第5刷:1997年), 290ページ.

■ 論文:

1. 「21世紀グローバリゼーション時代に改めて「健康」を問う」(『公衆衛生』医学書院), (84) 492-493 ページ, 2020年.
2. 「外国人ヘルスケアにおける外国語双方向性運用能力の不可欠性」(『医療通訳 4.0』松柏社, 108-120 ページ, 2020年.
3. 「浅川伯教著「鈴木先生」(『京城日報』掲載、1930年5月)による鈴木先生の審美眼の分析考」(『Co*Design』大阪大学 CO デザインセンター), (5) 65-75 ページ, 2019年. <https://sakuyakai.net/1926/>
4. 「外国語学習における媒介語の重要性」(『国際語としてのロシア語—国際統一基準に言語能力レベル評価システム構築の現状と将来的課題—』, 大阪大学言語文化研究科), 1(1), 61-71 ページ, 2019年.
5. 「グローバルの観点から長期滞在外国人の生命を問う」(『大阪公衆衛生』公益財団法人・大阪公衆衛生協会, (90)17-19 ページ, 2019年.
6. 「グローバル外国語教育に不可欠な「高度汎用力」の原点: interactive competence を支える「スクライビング」実践報告」林田雅至・印南敬介共著, (『Co*Design』大阪

- 大学 CO デザインセンター), 3(1) 79-85 ページ, 2018 年.
7. 「序論: Interactive competence の観点から『日葡辞書』(1603-1604)の現代語化を考える」(『Co*Design』大阪大学 CO デザインセンター), 2(2) 59-69 ページ, 2017 年.
 8. 「医療通訳(医療言語学によるイノベーション)はグローバル社会との「共創」によって世界の扉を開く」(『Co*Design』大阪大学 CO デザインセンター), 1(1) 85-102 ページ, 2017 年.
 9. *A história e a presença da língua e da cultura portuguesa no Japão*, 記念学術講演(日本におけるポルトガル語・文化の歴史と現在), 1916-2016 東京外国語大学ポルトガル語教育 100 周年記念イベント－Mundus Latinus in Japan－, 2016 年.
 10. 「巡礼考―映像作品を通じたサンティアゴ・デ・コンポステラ巡礼の現在性―」(『説話・伝承学』説話伝承学会), (24)19-30 ページ, 2016 年.
 11. 「目指せ! 多言語コミュニケーション・デザイナー」(『Communication-Design 特別号』大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)), (1)108-117 ページ, 2016 年.
 12. 「大学の取り組み―まずは University Community Interpreter の養成を目指そう!―」(『多文化共生時代の法と言語』, 科学研究費補助金・基盤研究 A(平成 22~25 年度)), (1)95-104 ページ, 2014 年.
 13. 「Language Barrier Free とアンドロイド仕様多言語問診票の可能性」(『社会医学研究』(特別号)社会医学会), 149-150 ページ, 2012 年.
 14. 「マイノリティ・コミュニティを考察する」(医療分野ポルトガル語スペイン語講座『平成 23 年度報告書』愛知県立大学), 27-35 ページ, 2011 年.
 15. 「序論: 日本社会の外国人疎外感を緩和・阻止せよ!」(『Communication-Design』大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)), (5)21-30 ページ, 2011 年.
 16. 「旧大阪外国語大学・地域連携事業から新大阪大学・社会連携事業へ」(『Communication-Design』大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)), (3)226-236 ページ, 2010 年.
 17. 「大航海時代のポルトガル・ルネサンス」(世界遺産登録記念・図録『輝きふたたび石見銀山展』山陰中央新報社), 89-90 ページ, 2007 年.
 18. 「中世ポルトガルの歌謡について」(『テキストとしてのフランス文化』, 1996-7 年度特定研究報告書, 大阪外国語大学フランス研究会), 77-94 ページ, 1998 年.
 19. 「外国語教育の一環としてメディア・リテラシーを高める実践メディア教育」(『第 37 回全国研究大会発表論文集』, 語学ラボラトリー学会(LLA)), (37) 156-159 ページ,

1997 年.

20. 「マルチメディア時代の説話・伝承学」(『説話・伝承学』説話伝承学会), (5)25-30 ページ, 1997 年.
21. 「中世ビスカヤ領主アロー族家系伝説と十三世紀ポルトガルの王位継承権問題」(『説話・伝承学』説話伝承学会), (3)77-93 ページ, 1995 年.
22. 「私説《視覚映像文化論》その 11:テレビドラマ化された筒井康隆『時をかける少女』(1976,角川文庫 3637)～視覚率獲得のための図像創造過程の一例～」(『視聴覚外国語教育研究』大阪外国語大学), (18)31-45 ページ, 1995 年.
23. 「私説《視覚映像文化論》その 10:図像解釈学による黒死病除け聖人崇拝分析～視覚的大衆操作技術の歴史学～」(『視聴覚外国語教育研究』大阪外国語大学), (17)13-28 ページ, 1994 年.
24. 「天正遣欧使節と聖ロック教会」(『日本史研究』), (373)75-79 ページ, 1993 年.
25. 「私説《視覚映像文化論》その 9:紅色小十字架刻印・聖人物語」(『視聴覚外国語教育研究』大阪外国語大学), (16)39-55 ページ, 1993 年.
26. 「私説《視覚映像文化論》その 8:秀逸なる芸術性溢れる空想的科学主義映画『ターミネーター2』」(視聴覚資料係編集『AV JOURNAL』大阪外国語大学), (23) 6-8 ページ, 1992 年.
27. 「私説《視覚映像文化論》その 5:連続少女殺害事件・考」(『視聴覚外国語教育研究』大阪外国語大学), (13)69-83 ページ, 1990 年.
28. 「māe(母)の文献学」(『大阪外国語大学論集』大阪外国語大学), (1) 145-152 ページ, 1990 年.
29. 「民衆文芸の系譜学」(『大阪外国語大学学報』大阪外国語大学), (77) 53-71 ページ, 1989 年.
30. 「大阪外国語大学における《語学教育》のありかたについて」(『大阪外国語大学ポルトガル・ブラジル語学科創立 10 周年記念論文集』大阪外国語大学), 61-72 ページ, 1989 年.
31. 「ポルトガル語教材考(2)」(『大阪外国語大学学報(言語・文学編)』大阪外国語大学), (75)137-154 ページ, 1988 年.
32. 「私説『視覚映像文化論』(その 1 ポルトガル映画・テレビ事情)」(視聴覚資料係編集『AV JOURNAL』大阪外国語大学), (11) 12-14 ページ, 1987 年.
33. 「ポルトガル語教材考(1)」(『世界口承文芸研究』大阪外国語大学口承文芸研究会編, 大阪大学), (8)467-478 ページ, 1987 年.

34. 「異端審問制度と宮廷劇作家 Gil Vicente」(『大阪外国語大学学報(言語編・文学編)』大阪外国語大学), (74)87-96 ページ, 1987 年.
35. 「ペストと聖セバスティアヌス崇拜」(『大阪外国語大学学報』大阪外国語大学), (73)81-99 ページ, 1986 年.
36. 「ポルトガルのペスト養生訓」(『大阪外国語大学学報』大阪外国語大学), 72(2)27-39 ページ, 1986 年.
37. *A Inquisição : Gil Vicente A propósito do conceito de conversão "à força"*(異端審問制度 : 強制改宗の概念の視点による中近世劇作家ジル・ヴィセンテ), (『Anais(日本ポルトガルブラジル学会誌)』, 日本ポルトガルブラジル学会), (18)69-77 ページ, 1984 年.
38. 「映画『しろばんば』:(1962, 日活, モノクロ, 滝沢英輔監督; 1982 年 11 月 1 日, 関西朝日系放送分): 修士論文序章—修士論文のマージナル・ノートより」(『言語文化研究』東京外国語大学院外国語学研究科言語・文化研究会, 東京外国語大学), (1)1-8 ページ, 1983 年.
39. «*Tuina*», *cerimónia japonesa e o culto de S. Sebastião*(日本の儀式・追儺と聖セバスティアヌス崇拜)(『Revista Lusitana(ポルトガル民俗学誌)』, Lisboa), (4) 149-169 ページ, 1982 - 83 年.

*上記註釈及び業績目録に含まれるすべての URL の最終閲覧日時は 2021 年 1 月 30 日であることをここに附言する.